

分担研究者 石川智久

熊本大学医学部附属病院 神経精神科 助教

研究要旨:

目的: 平成28年度研究において、認知症患者の日常生活行為障害を明らかにするために作成した、「生活行為工程分析に基づく ADL 評価モデル」を用いて、前頭側頭葉変性症（Fronto-Temporal Lobar Degeneration; FTLD）患者の日常生活行為障害が、どの行動工程にあるのかを明らかにする。

対象: 平成29年10月から12月までに、熊本大学医学部附属病院神経精神科 認知症専門外来に通院中の FTLD 患者の主介護者。

方法: 同外来受診時に、作業療法士または精神保健福祉士が、主介護者に対して、我々が平成28年度本研究総括研究において開発した「生活行為工程分析に基づく ADL 評価モデル」を用いて、日常生活動作を評価する。評価を実施できたのは、8名で、疾患背景は、意味性認知症（svFTD）の患者であった。男性4名、女性4名、平均年齢は70.0歳（Max 80 – Min 62 歳）、平均の MMSE 得点は15.6 / 30点（Max 26 – Min 1点）であった。

結果: 基本的な生活動作である、排泄、食事はほぼ行為の立案、実施、完了の一連の行為がほぼすべての対象者で可能であった。また、整容、入浴といった、自宅での日常生活活動についても、3/4程度の対象者は行為を完了することができていた。一方、電話、調理、金銭管理といった、社会生活要素がかかわるひとまりの行動では、実施できていたのは、対象者の半数以下となった。

まとめ: FTLD 患者では、MMSE による評価で認知症が中等度となっても、基本的な生活動作そのものは保たれており、一方で、社会活動にかかわる生活行為は著しく低下することが明らかとなった。このことは、認知機能と日常生活活動が相関をもって低下していくアルツハイマー病の経過とは様相が異なる可能性が考えられ、他の認知症性疾患との比較検討が待たれる。

A. 研究目的

平成28年度研究において、認知症患者の日常生活行為障害を明らかにするために作成した、「生活行為工程分析に基づく ADL 評価モデル」（以下、生活障害評価表）（資料1）を用いて、前頭側頭葉変性症（Fronto-Temporal Lobar Degeneration; FTLD）患者の日常生活行為障害が、どの行動工程にあるのかを明らかにする

B. 研究方法

【対象】

平成29年10月から12月までに、熊本大学医学部附属病院神経精神科 認知症専門外来に通院中の FTLD（意味性認知症 = svFTD）患者8名の主介護者。

【分析方法】

同外来受診時に、作業療法士または精神保健福祉士が、主介護者に対して、我々が平成28年

度本研究総括研究において開発した「生活行為工程分析に基づく ADL 評価モデル」を用いて、直接対面による半構造化面接により、日常生活動作を評価する。

（倫理面への配慮）

通常の臨床現場において知りえた情報を活用することについての包括的研究である「神経精神科外来受診者における診療内容の解析研究」の一環として、本人・主介護者に対して書面による説明と同意を得たうえで実施した。また、個人が特定されない形の匿名化を行い、分析した。

C. 研究結果(図1)

男性4名、女性4名、平均年齢は70.0歳（Max 80 – Min 62 歳）、平均の MMSE 得点は15.6 / 30点（Max 26 – Min 1点）であった。

（排泄）ほぼ全員で、トイレへ行き、用を足してトイレを出るといった一連の行動ができていた。1例は、トイレから出る

のに、促しが必要と回答した。

(食事) 全員、食事をとって口に運び、食べるという行為はできていた。1例は食べやすく整えることができず、1例は、マイペースで食べるため、食事を適切に終える、の項目で失点していた。

(整容) 3/4のケースで、実施が可能であった。1例は、整髪やメイクの必要性がないと回答し、実施していなかった。実施していたケースでも、メイクを塗りすぎるなど、行為はできていても質的評価が低い。

(入浴) ほぼ全員で、入浴できていたが、行程を分析すると、「湯の温度を調節する」「体を洗う」「髪を拭く」の項目で、できないと回答したケースが目立ち、調節をするという“加減”“判断”を必要とする工程や、「掛け湯をせずザブンと湯船につかる」「体や髪をあらいたがらない」という質的な低下を示唆する記載があった。

(電話) 電話をもったり、かけたり、受けたり、という道具としての使用は半数のケースで可能であった。しかし、電話の本来の目的である、用件を伝える、コミュニケーションをとるという工程では、完遂できるケースはすくなくなり、行為障害そのものではない要素が影響している。

(買い物) おおむね買い物の行程は可能であった。下位項目では、買い物カートを取る、おつりの有無を確認するといった、マナーや慎重さが要求される工程で、できないと回答するケースがみられた。また、自由記載において、「同じものばかり買ってくる」「おつりはもらった分だけもらう(確認しない)」「会計では、いつも1万円札を出す」という、工程そのものというより、質的変容がみられた。

(調理) 多くの対象者で調理はできなかった。とくに、献立を考えたり、調味をととのえたりするなどの工程はできなくなっている。一方、できた料理を運ぶ、箸やカトラリーを並べるといった工程は多くの対象者で可能であった。

(家事) できていたのは、半数以下であった。とくに、生活用品や寝具の管理や、家の掃除、ゴミ捨での判断などで、できないと回答するケースが多かった。FTLDの症候としての判断や意欲などの影響が考えられる。

(服薬) 服薬はおおむねいずれの工程でも実施が可能であった。しかし、不足分・余剰分をどうしたらいいかといった、何らかの

判断を要する場面では、適切な対処が困難であった。自由記載では、飲み薬に関しては、自発的に時計で時間を確認しながら内服することができる、の記載もあり、質的にもおおむね自立しているとおもわれる。

(金銭管理) できていたのは、対象者の半数以下であった。金銭の管理、把握、取引などの機能は早い時期から低下していた。自由記載でも、決まった額しか支払わない、管理させていない、など、家族の介入がもっとも多くみられた項目であった。

D. 考察

基本的な生活動作である、排泄、食事については、行為の立案、実施、完了の一連の行為がほぼすべての対象者でできていた。また、整容、入浴といった、自宅での日常生活活動についても、おおむね3/4程度の対象者は行為を完了することができていた。一方、電話、調理、金銭管理といった、社会生活要素がかかわるひとままとりの行動では、実施できていたのは、対象者の半数以下となった。質的評価の指標として自由記載をみると、「行為そのものはできる」あるいは「させていないができるとおもう」と回答していても、判断や加減が必要な場面になると、不適切な行為となる結果、家族が介入していることが明らかとなった。多くは、「同じものばかりほしがる」といった常同行動や、「掛け湯をせずにザブンと湯船につかる」といったマナーの欠如、「おつりを計算せずに、もらったらもらったものだけでもちかえる」といった考え無精など、FTLD特有の症候を背景とした行動障害であることが示唆された。このことは、アルツハイマー病患者が、MMSEなどの認知機能低下とともに、生活機能が徐々に低下し、行為、工程そのものが低下していくこととは様相が異なり、今回調査したMMSE中等度のsvFTD患者であっても、早期から何らかの質的評価が必要であることを示している。FTLD以外の認知症との比較検討が、今後待たれる。

また、今回我々の開発した評価尺度は、一つ一つの工程ができていくかの指標にはなりえたが、FTLDの生活障害を評価するには、質的評価の要素が不足しており、この点について、別の評価尺度の活用が必要であると考えられた。

E. 結論

FTLD患者では、MMSEによる評価で認知症が中等度となっても、基本的な生活動作そのものは保たれており、一方で、社会活動にかかわ

る生活行為は著しく低下することが明らかとなった。このことは、認知機能と日常生活活動が相関をもって低下していくアルツハイマー病の経過とは様相が異なる可能性が考えられ、他の認知症性疾患との比較検討が待たれる。

また、FTLD 患者の生活行為障害を質的に評価できる評価尺度や指標の開発も、今後必要である。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Koyama A, Matsushita M, Hashimoto M, Fujise N, Ishikawa T, Tanaka H, Hatada Y, Miyagawa Y, Hotta M, Ikeda M. Mental health among younger and older caregivers of dementia patients. *Psychogeriatrics*. 17(2):108-114, 2017.

2) 谷向 知, 櫻林 哲雄, 園田 亜希, 福原 竜治, 小森 憲治郎, 石川 智久. 特集 / ["失敗"から学んだこと: 認知症診療実践の振り返り] 顕著な前頭葉症状がみられる一方、他者への配慮がみられた一例. *老年精神医学雑誌* 28(6): 637-640, 2017.

3) 石川 智久. 認知症医療の問題点 ~ 多職種間に横たわる問題点: 認知症初期集中支援チームの現状と課題 ~. *日本早期認知症学会誌* 10(2): 64-70, 2017.

4) 堀田 牧, 田平 隆行, 石川 智久, 橋本 衛. 特集 / 【認知症と ADL】アルツハイマー病患者の ADL 障害. *老年精神医学雑誌* 28(9): 984-988, 2017.

5) 石川 智久. 特集 / 【認知症と ADL】前頭側頭葉変性症と ADL. *老年精神医学雑誌* 28(9): 993 - 996, 2017.

2. 学会発表

1) 本田 和揮, 堀田 牧, 石川 智久, 橋本 衛, 池田 学. 軽度アルツハイマー病患者に対する小グループ作業療法の効果と課題. 第92回日本老年精神医学会, 名古屋, 6月14-15日, 2017, 口頭発表

2) 田平 隆行, 堀田 牧, 村田 美希, 吉浦 和宏, 石川 智久, 小川 敬之, 森 崇明, 吉田 卓, 池田 学. 加齢による初期 AD 患者の ADL/IADL 自立度低下の特徴. 第92回 日本老年精神医学会, 名古屋, 6月14-15日, 2017, 口頭発表

3) 堀田 牧, 高崎 昭博, 池崎 寛人, 宮川 雄介, 石川 智久, 橋本 衛. 認知症者の嗅覚の自覚と嗅覚低下の特徴に関する研究. 第92回日本老年精神医学

会, 名古屋, 6月14-15日, 2017, 口頭発表

4) 上野 由紀子, 勝屋 朗子, 福田 瑛, 石川 智久, 橋本 衛. 若年発症アルツハイマー病患者における WAIS-□の一考察. 第41回 日本神経心理学会 学術集会, 東京, 平成29年10月12 - 13日.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

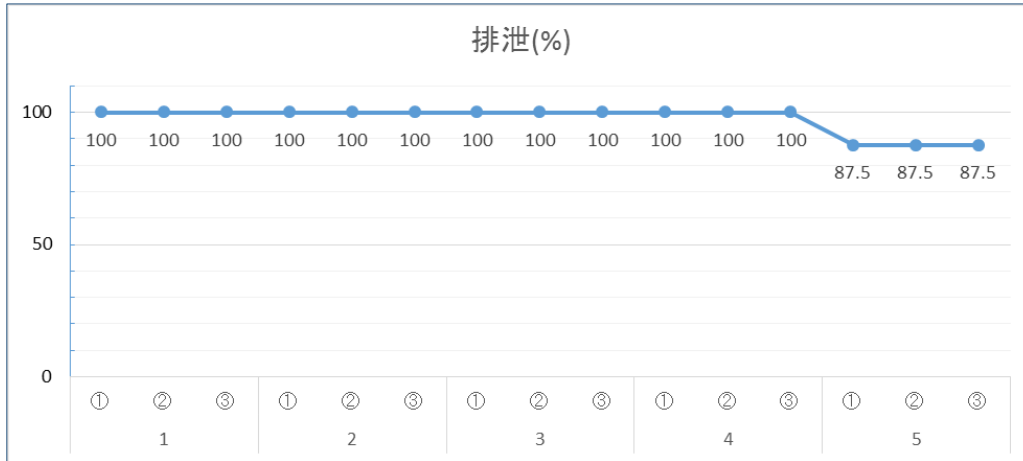
なし

(図1) 「生活行為工程分析に基づく ADL 評価モデル」による評価

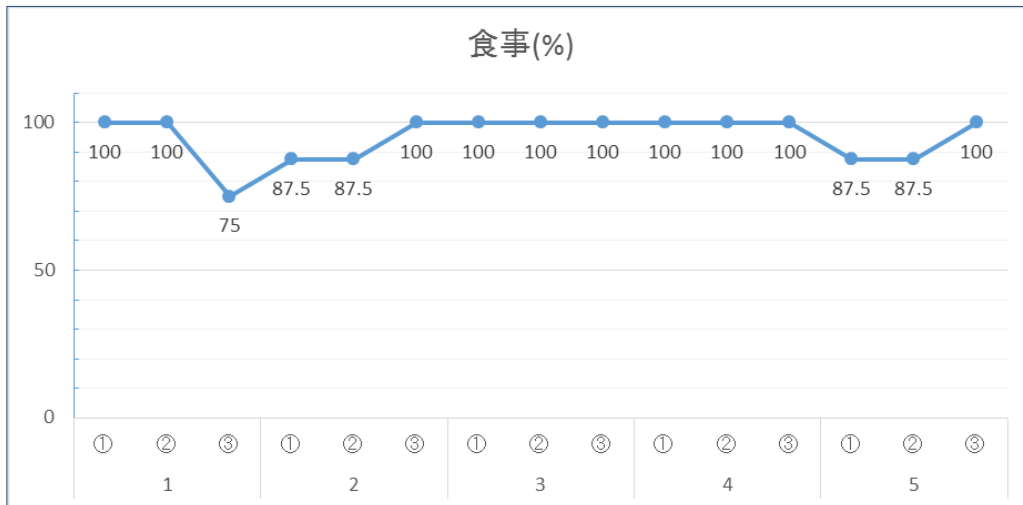
* 縦軸：各々の工程に対し、介護者が「できる」と回答した対象者の割合

* 横軸：各工程（資料1参照）

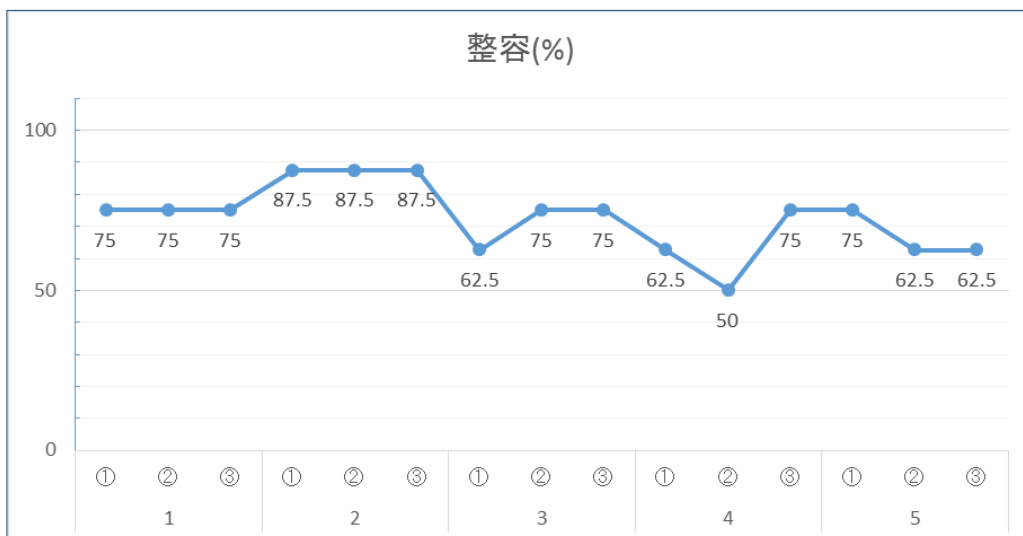
【排泄】



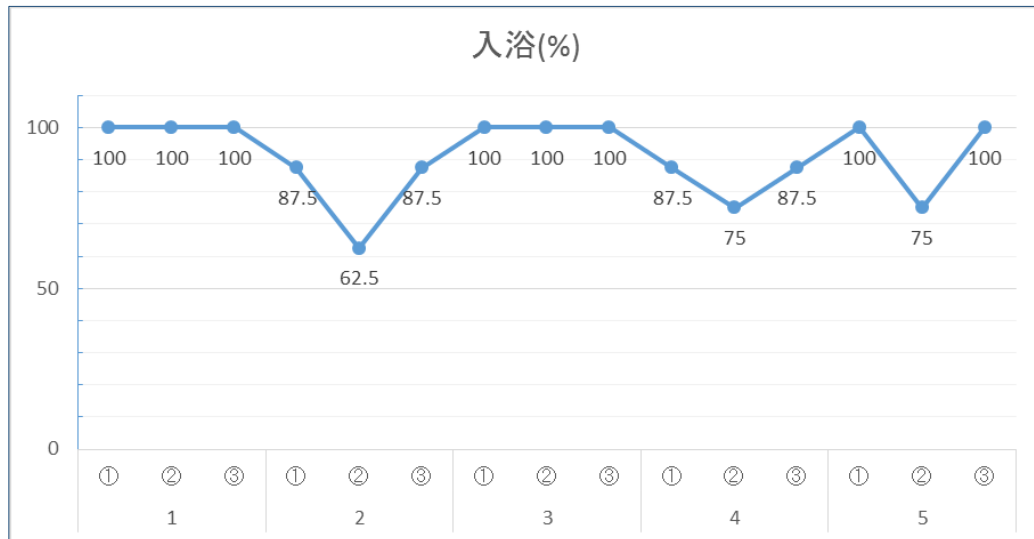
【食事】



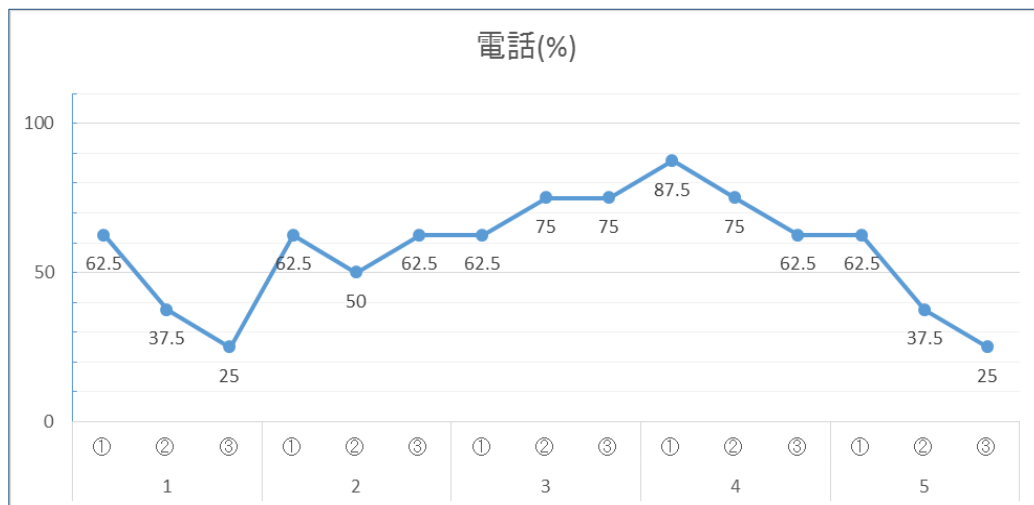
【整容】



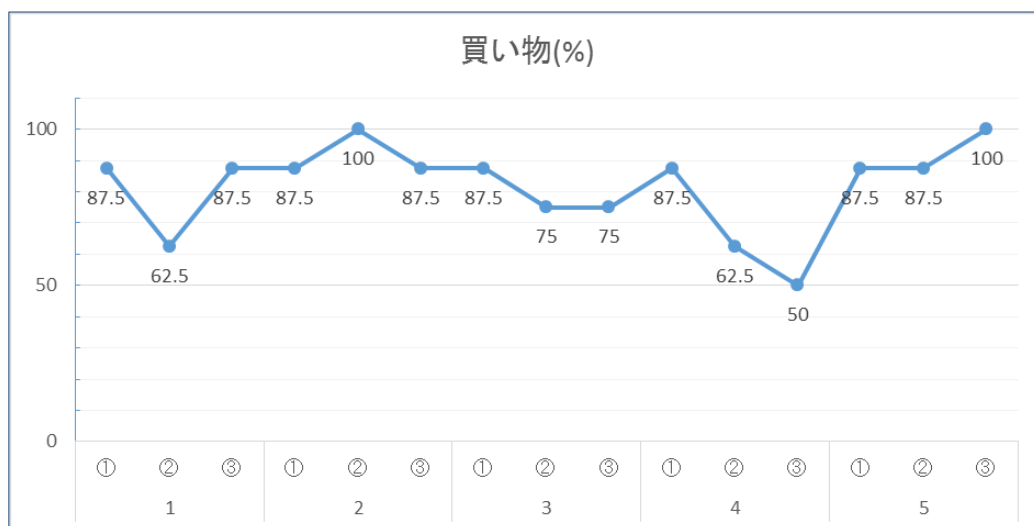
【入浴】



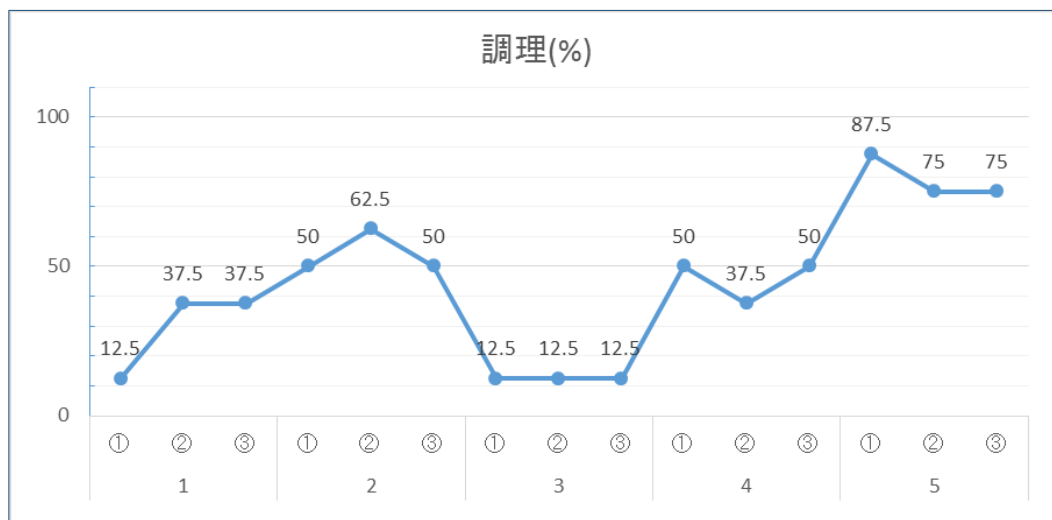
【電話】



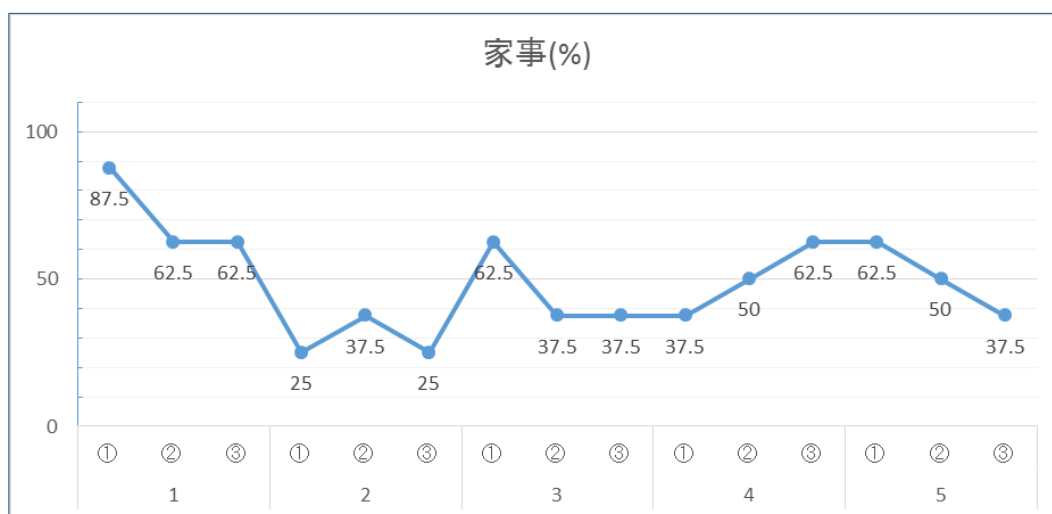
【買い物】



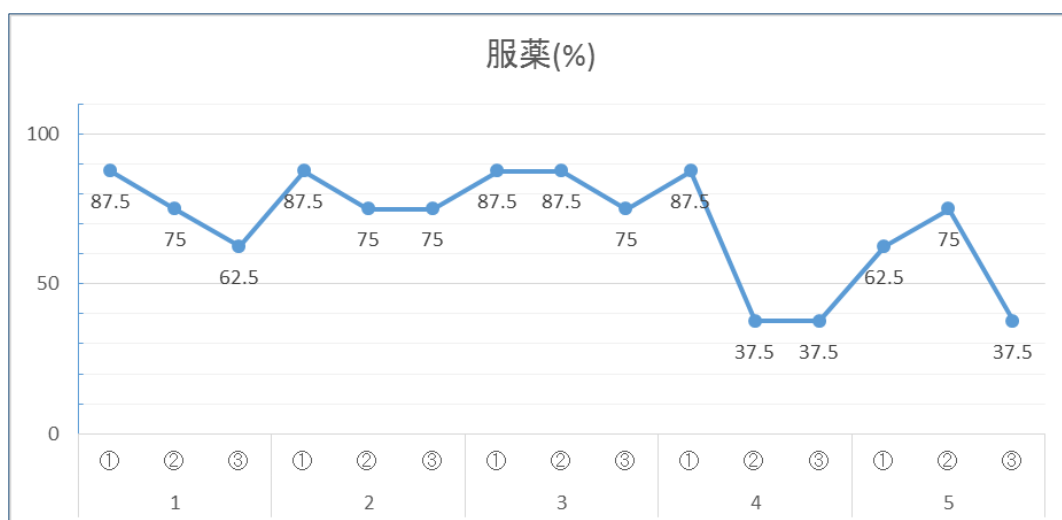
【調理】



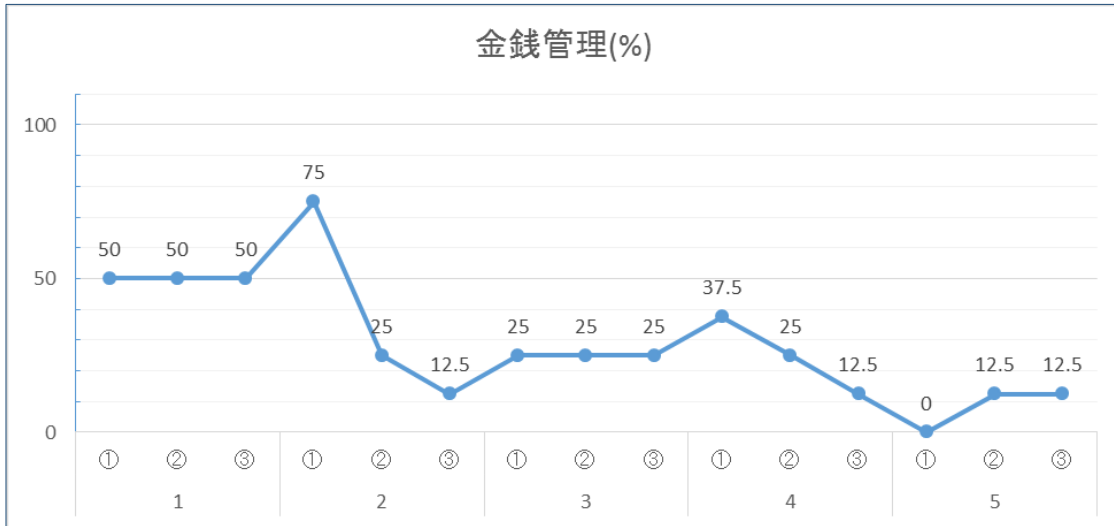
【家事】



【服薬】



【金錢管理】



平成29年度 厚生労働科学研究費補助金 (長寿科学政策研究事業)

「生活行為障害の分析に基づく
認知症リハビリテーションの標準化に関する研究」

分担研究 FTLDと生活リハビリ

対象者氏名 _____

MMSE _____ / 30

検査聴取者(夫・妻等) _____

聞き取った人 _____

日付 _____

【食事】

食事						
着席時から食べ終わるまで。自己摂取	評価	食事の工程	下位項目	チェック		備考
	1. 料理を選ぶ	テーブルに着く	YES	NO		
		食べたい料理を手前に寄せる	YES	NO		
		料理に応じて箸・スプーンを手にする	YES	NO		
	2. 食べやすく整える	料理に箸・スプーンを入れる	YES	NO		
		料理を一口大に形成する	YES	NO		
		箸ではさむ・スプーンですくう	YES	NO		
	3. 料理を口に運ぶ	料理を口元に近づける	YES	NO		
		料理の匂い・温度を感知する	YES	NO		
		口を開けて料理を入れる	YES	NO		
	4. 料理を食べる	口を閉じて箸・スプーンを抜く	YES	NO		
		食物をよく噛む	YES	NO		
		食塊を飲み込む	YES	NO		
	5. 食事を終える	状況に応じた摂食スピード	YES	NO		
		主食・副菜を適量に摂取する	YES	NO		
		箸・スプーンを置く	YES	NO		
	1-	自分の席の理解と遂行				
1-	食べ物としての認識、料理が何であるかの理解、好物、嫌いなものの認識、目的の料理にリーチする					
1-	料理の形状から箸・スプーンを選択できる、箸・スプーンの意味や用途、操作の理解					
2-	目的の料理にリーチする					
2-	自分の口の大きさと口に入る食べ物の大きさの認識、食べ物のテクスチャーの理解、形成する力加減の理解と遂行					
2-	食べ物のテクスチャーの理解、食べ物を把持する力加減の調整					
3-	食べ物としての認識、器から口元までの距離間隔の理解と遂行					
3-	嗅覚、温度感覚の維持、食欲の維持と遂行					
3-	食べ物としての認識、自分の口の大きさと口に入る食べ物の大きさの認識、形状から開口の度合いを調節					
4-	食物と異物の認識と遂行					
4-	食べ物としての認識と遂行					
4-	食べ物としての認識と遂行					
5-	食事環境の理解と遂行					
5-	適量の理解と遂行					
5-	食事終了のサインという理解と遂行					

【整容】

整容（身繕い）							
洗顔をから基本的な目的に応じた身繕い。	評価	整容の工程	下位項目		チェック		備考
	1. 歯磨き		歯ブラシを手に取る		YES	NO	
			上歯・下歯を磨く		YES	NO	
			口の中をゆすいで吐く		YES	NO	
	2. 洗顔		水栓を開ける		YES	NO	
			水を手にとる		YES	NO	
			顔を洗う		YES	NO	
	3. 髭剃り・化粧		肌を濡らす・蒸らす	ベースメイクをする	YES	NO	
			シェーバー・剃刀で髭を剃る	目・口元をメイクする	YES	NO	
			剃り残しを確認する	仕上がりを確認する	YES	NO	
	4. 整髪		髪の毛をすく		YES	NO	
			フケや汚れを払い落とす		YES	NO	
			髪の色を整える		YES	NO	
	5. 爪の手入れ		爪切りを使用できる状態にする		YES	NO	
			両手の爪を切る		YES	NO	
			両足の爪を切る		YES	NO	
1-		歯ブラシの意味や用途の理解、歯ブラシの置き場所の理解と認識					
1-		歯ブラシの操作の理解、歯の汚れや詰まりの認識（もしくは無意識に歯全体を磨いている）					
1-		洗浄行為としての理解、洗面台の意味と用途の理解					
2-		水栓の意味や用途、操作方法の理解					
2-		手のひらをくぼませて水を溜める、洗顔行為の準備としての理解					
2-		水で顔を濡らして洗う、洗顔の意味の理解					
3-		道具の意味や用途、使用方法の理解と遂行					
3-		鏡越しの手と顔の位置関係の理解、目と手の協調性と遂行、および道具の意味や用途、使用方法の理解					
3-		仕上がりの理解（本人なりに納得できる仕上がり）					
4-		髪の毛をすく意味の理解と遂行、鏡越しの手と髪の色関係の理解					
4-		フケや汚れの認識					
4-		仕上がりの理解（本人なりに納得できる仕上がり）					
5-		・爪切りの意味と用途の理解、道具の使い方の理解					
5-		・伸びている爪と皮膚の認識、道具の操作性					
5-		・伸びている爪と皮膚の認識、道具の操作性					

【入浴】

入浴						
衣類を脱いで清潔で身体動作の自立。	評価	入浴の工程	下位項目	チェック		備考
		1. 着ている服を脱ぐ		服の留め具を外す	YES	NO
上衣を脱ぐ				YES	NO	
下衣を脱ぐ				YES	NO	
2. 掛け湯する			湯の温度を手で確認する	YES	NO	
			湯の温度を調節する	YES	NO	
			体にお湯をかける	YES	NO	
3. 湯舟に浸かる			浴槽の縁をまたぐ	YES	NO	
			両足を浴槽に入れる	YES	NO	
			腰を屈めて湯に浸かる	YES	NO	
3. 体・髪を洗う			石鹸・シャンプー液を手にとる	YES	NO	
			身体・頭髪を洗う	YES	NO	
			泡を洗い流す	YES	NO	
4. 体・髪を拭く		足裏の水気をとる	YES	NO		
		髪を拭く・乾かす	YES	NO		
		身体を拭く	YES	NO		
1-		ボタンやファスナーなど留め具の位置、外し方の理解と遂行				
1-		上衣の形状、脱ぎ方の理解と遂行				
1-		下衣の形状、脱ぎ方の理解と遂行				
2-		お湯の危険性の認識、安全な温度確認の手段の選択と遂行				
2-		水やお湯で埋める、追い炊きするなど、本人が望む温度調節の遂行				
2-		かけ湯の意味の理解、洗面器・シャワーの意味や用途の理解と遂行				
3-		浴槽の意味や用途の理解、認識。浴槽の深さに対する足の運び方の理解と遂行				
3-		浴槽の意味や用途の理解、湯に浸かるための行為という理解と遂行				
3-		浴槽の意味や用途の理解、身体を沈ませる範囲の理解と遂行				
4-		石鹸・シャンプーの識別や用途の理解、使い方や操作の理解と遂行、置き場所の理解と遂行				
4-		石鹸・シャンプーの識別や用途の理解、泡の立て方の理解と遂行、身体や頭髪の洗い方の理解と遂行				
4-		洗面器やシャワーの使い方の理解、遂行。注意機能の維持（流し残しがないか）				
5-		浴室と脱衣所の意味の理解、バスマットの意味や用途の理解、認識				
5-		タオル、ドライヤーの意味や用途の理解、使い方の理解と遂行。乾き具合の認識				
5-		タオル、ドライヤーの意味や用途の理解、使い方の理解と遂行。乾き具合の認識				

【電話】

電話					
評価	電話の工程	下位項目	チェック		備考
かけたい時にかけ、かかってきた電話に対応できる。	1. 電話をかける	電話機を手にする	YES	NO	
		通話ボタンを押す	YES	NO	
		かけたい番号にかける	YES	NO	
	2. かけた相手と話す	電話機を耳にあてる	YES	NO	
		出た相手を確認する	YES	NO	
		用件を伝える	YES	NO	
	3. 電話を切る	会話を終了する	YES	NO	
		電話機を耳から離す	YES	NO	
		通話終了ボタンを押す	YES	NO	
	4. かかった電話に出る	呼び出し音に気づいて電話機を探す	YES	NO	
		発信者を確認する	YES	NO	
		通話ボタンを押す	YES	NO	
	5. かけてきた相手と話す	電話機を耳にあてる	YES	NO	
		用件を尋ねる	YES	NO	
		応答が成り立つ	YES	NO	
1-	電話機の意味や用途の理解と遂行				
1-	通話ボタンの位置と意味の理解、操作の理解と遂行				
1-	かけたい相手の認識、アドレス帳や電話のアドレス機能、短縮ボタンなど手段の選択と遂行				
2-	電話機の意味と位置の理解と遂行				
2-	通話相手の認識と遂行				
2-	伝える用件の理解と伝達の遂行				
3-	用件が伝達されたことの理解と遂行				
3-	会話の終了の理解				
3-	通話終了ボタンの位置と意味の理解、操作の理解と遂行				
4-	呼び出し音の意味や音の方向の理解と遂行				
4-	発信者の認識、着信音や液晶表示などで理解できる				
4-	相手を認識した上で操作する、もしくは、通話したくない相手と認識して通話の操作をしない				
5-	電話機の意味と位置の理解と遂行				
5-	相手からの用件や目的を理解し、必要な要件か判断、遂行する				
5-	用件と状況に応じて会話を続ける、もしくは終了させる				

【買い物】

買い物						
対面式の店入店から目的の店を出るまでの購入する	評価	買い物の工程	下位項目	チェック		備考
	対面式の店入店から目的の店を出るまでの購入する	1. 店内に入る		入店する	YES	NO
買い物かご・カートを取る				YES	NO	
目的の売り場を確認する				YES	NO	
2. 目的の売り場に行く			売り場の方向に行く	YES	NO	
			人や陳列台をよけて行く	YES	NO	
			目的の商品売り場に着く	YES	NO	
3. 商品を選ぶ			目的の商品を探し出す	YES	NO	
			値段・ラベル表示を確認する	YES	NO	
			商品を必要数かごに入れる	YES	NO	
4. 商品の代金を支払う			レジに並ぶ	YES	NO	
			提示額に見合った現金を出す	YES	NO	
			お釣りの有無を確認する	YES	NO	
5. 商品を持ち帰る			商品を受け取る	YES	NO	
			袋に入れる	YES	NO	
			出口に向う	YES	NO	
1-		店の種類の理解、購入したい商品の理解、入店する店の認識と遂行				
1-		かご、カートの意味や用途の理解、使い方の理解と遂行				
1-		・購入したい物の理解、売り場のオリエンテーション表示の意味や用途、指示の理解と遂行				
2-		売り場の方向の認識と遂行、地誌的見当識の維持				
2-		進行に対する障害物や危険物の認識、注意の配分、判断と遂行				
2-		売り場の認識と遂行				
3-		購入したい商品の認識（形状・色・大きさなどのデザイン、メーカー）と遂行				
3-		購入可能な商品の認識（価格、消費期限、賞味期限）、判断と遂行				
3-		必要とする購入数や量の認識と遂行				
4-		レジ、列の意味の理解、遂行（並んで順番を待つ）				
4-		提示額の理解、紙幣と硬貨の意味、用途の理解。起算機能、お釣りが出る紙幣と硬貨の出し方の理解と遂行				
4-		お釣りが出ることの理解、もしくは、お釣りがでないことの理解				
5-		支払い済みの商品であることの認識と遂行				
5-		購入物の確認と遂行				
5-		出口の認識、買い忘れがないことの認識と遂行				

【調理】

調理						
献立の準備から食した手順で準備が整うまで。	評価	調理の工程	下位項目	チェック		備考
		1. 献立を立てる		献立の料理手順を想起したり調べる	YES	NO
必要な材料を探す				YES	NO	
材料・調理道具をそろえる				YES	NO	
2. 食材の加工			食材を洗う	YES	NO	
			食材を剥く、切る、つぶす	YES	NO	
			食材に火を通す、温める	YES	NO	
3. 食材の調味			料理に見合った調味料を選ぶ	YES	NO	
			適量を入れる	YES	NO	
			味見をする	YES	NO	
4. 盛り付け			料理に見合った器を選ぶ	YES	NO	
			人数分の器をそろえる	YES	NO	
			器に見合った量をよそう	YES	NO	
5. 配膳			食卓に料理を運ぶ	YES	NO	
			料理を並べる	YES	NO	
			箸・スプーンをそろえる	YES	NO	
1-		作りたい具体的なメニューの認識、その手順や材料、準備物の認識と遂行				
1-		必要な食材や調味料の数・量の確認と遂行				
1-		不足分の認識、買い物に行く、配達してもらうなど調達手段の選択と遂行				
2-		材料の認識、汚れの認識、洗い落とす遂行性				
2-		メニューの理解、調理道具の意味や用途の理解と選択、メニューにあわせた食材の形状加工の遂行				
2-		危険物への注意の維持、分配。メニューにあわせた食材の加熱手段の理解と選択、遂行				
3-		メニューの理解、必要な調味料の理解と選択				
3-		作る分量の理解、分量にあわせた調味料の量を理解、使用				
3-		メニューの理解、想定する味付けになっているか確認、遂行				
4-		メニューや料理の形状の理解、料理の形状に合った器の理解と選択				
4-		作る量と人数の認識、人数分の食器の準備				
4-		器の容量と料理の量の認識、遂行				
5-		器の重さや料理の温度への注意、遂行				
5-		配置する位置の理解と遂行				
5-		料理の形態の認識、食事道具との組み合わせの理解と遂行				

【服薬】

服薬						
定期的 に 定量 を 服用 する	評価	服薬の工程	下位項目	チェック		備考
		1. 服薬の時間を守る		服用の時間・タイミングを知っている	YES	NO
外出先での時間・タイミングがわかる				YES	NO	
時間・タイミングがわかる手段をとる				YES	NO	
2. 決まった薬を出す			薬の置き場所を知っている	YES	NO	
			定時の薬袋を取り出す	YES	NO	
			決まった薬袋を開ける	YES	NO	
3. 定量を確認する			薬の形状を知っている	YES	NO	
			薬の色を知っている	YES	NO	
			薬の数・量を知っている	YES	NO	
4. 服用する			水と一緒に飲む	YES	NO	
			患部に貼る	YES	NO	
			患部に塗る	YES	NO	
5. 残薬を確認する		次の定時に服用する薬がわかる	YES	NO		
		薬の不足・余剰がわかる	YES	NO		
		不足・余剰に対処する	YES	NO		
1-		薬の意味と用途の理解、時の見当識の理解				
1-		薬の意味と用途の理解、時の見当識の理解				
1-		薬の場所の理解、アラームやカレンダーの意味、使い方の理解。薬の意味と用途の理解、時の見当識の理解				
2-		薬の保管場所の理解				
2-		服用量の認識と遂行				
2-		服用量の認識と遂行				
3-		薬の形状の理解、識別				
3-		薬の色の理解、識別				
3-		薬の数や量の理解				
4-		正しい飲み方の理解と遂行				
4-		患部の位置と貼り方の理解、遂行				
4-		患部の位置と塗り方の理解、遂行				
5-		服薬回数の理解、服用量・種類の理解				
5-		定量服用の理解				
5-		正しい状況判断と遂行（病院や薬局，家族に相談できる）				

【金銭管理】

金銭管理						
日常の支払いから銀行での取引まで	評価	金銭管理の工程	下位項目	チェック		備考
	1. 現金を扱う			必要額の硬貨を出す	YES	NO
			必要額の紙幣を出す	YES	NO	
			正しい額のお釣りを受け取る	YES	NO	
2. 日常での現金の使用			食料・雑貨を購入する程度に使用する	YES	NO	
			冠婚葬祭などの行事の支払い	YES	NO	
			家賃・請求書の支払いに使用する	YES	NO	
3. 家計費の把握			生活費がどの程度必要か把握している	YES	NO	
			貯蓄がどの程度あるのか把握している	YES	NO	
			資産がどの程度あるのか把握している	YES	NO	
4. 銀行・郵便局の利用			印鑑・通帳・カードの場所を把握している	YES	NO	
			窓口で取引する	YES	NO	
			ATMで取引する	YES	NO	
5. 電子マネー（ICカード）の利用			カードリーダーにかざす	YES	NO	
			現金でチャージする	YES	NO	
			残高を把握している	YES	NO	
			1- 提示額の理解、硬貨の意味や用途、使い方の理解と遂行、計算の維持			
			1- 提示額の理解、紙幣の意味や用途、使い方の理解と遂行、計算の維持			
			1- お釣りの有無の理解、計算の維持			
			2- 数千円範囲のお金の使い方の理解と遂行			
			2- 数千円範囲のお金の使い方の理解と遂行			
			2- 数万円範囲のお金の使い方の理解と遂行			
			3- 1ヶ月の食費、光熱費、家賃、交通費など諸経費の大まかな理解、収入や貯蓄の理解			
			3- 貯蓄額の理解			
			3- 保有資産の理解			
			4- 現金取引に必要な道具の保管場所の理解、認識			
			4- 窓口取引の手順の理解と遂行			
			4- ATM取引の手順の理解と遂行			
			5- カードリーダーの位置把握、かざす操作の遂行			
			5- チャージする端末の場所確認と操作の遂行			
			5- 残高を調べる方法を知っている			